佐賀県医師会 健康情報誌
はつらつ通信
Medical Information "HATSURATSU"
健康は一日にしてならず
vol.60
令和元年7月発行

むし・動物による刺咬傷

佐賀大学医学部皮膚科学教室　教授　**成澤 寛** 先生

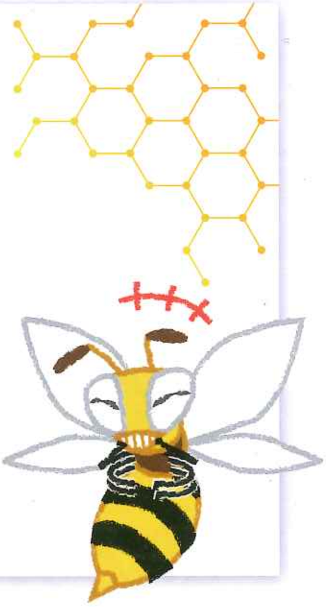
佐賀県は明らかな根拠はないものの、「ブン蚊都市」と言われた時代もあったようです。現在では蚊対策が取られ、成虫・ボウフラ（蚊の幼虫の俗称）の駆除に加え、水路の整備や下水道の普及により生活排水の停溜も改善され、蚊の数は減っているようです。

夏本番となり、子供も大人も屋外で過ごす機会が増えるとともに、暑さのため衣服から露出する皮膚も広くなります。レジャーなど親子で過ごす楽しいひと時も、虫に刺される辛い思いは避けたいものです。虫刺されに関する情報を知ることにより、蚊やブユ、毛虫やダニなどへの対処も可能となります。

Q1 虫刺されの原因となる虫にはどんなものがありますか？

虫と呼ばれるものにはいろいろありますが、皮膚炎を引き起こす原因となる主な虫としては、蚊、ノミ、ブユ、ハチ、トコジラミ、アブ、ケムシなどの昆虫類、そして、ダニ、クモ、ムカデなどの昆虫以外の節足動物が挙げられ、原因虫と発症様式は表のとおりです。海に入る機会が多い夏場では、「虫」ではありませんが、クラゲやヒトデ、魚類などの海生動物にも刺すものがあり、皮膚炎を起こすことが知られています。

発症様式	昆　虫	その他の節足動物
刺咬	ハチ、アリ	クモ、ムカデ、サソリ
接触	ドクガ、イラガ、ハネカクシ、カミキリモドキ	
吸血	カ、ブユ、アブ、ヌカカ、トコジラミ、ノミ	イエダニ、マダニ
寄生	ヒトジラミ、ケジラミ	ヒゼンダニ
媒介		マダニ、ツツガムシ



Q2 虫刺されの皮膚症状は？

虫刺されによって生じる皮膚症状には、大きく分けると「痛み」と「かゆみ」があります。痛みには、虫が皮膚を刺したり咬んだりすることによる物理的な痛みと、皮膚に注入される物質の化学的刺激による痛みがあります。かゆみは、皮膚に注入された物質（毒成分や唾液腺物質）に対するアレルギー反応によって生じます。そして、アレルギー反応には主に即時型（すぐに起こる）反応と遅延型（ゆっくり起こる）反応があります。

即時型反応は、虫の刺咬を受けた直後からかゆみ、発赤、ジンマシンなどが出現し、数時間で軽快する反応です。一方、遅延型反応は、虫の刺咬を受けた1～2日後にかゆみ、発赤、ぶつぶつ、水ぶくれなどが出現して、数日～1週間で軽快する、という反応です。

虫による皮膚疾患が出現するとき

- 01 虫が自分を守るため、ヒトの皮膚を刺したり咬んだりした　**刺咬**
- 02 虫のもつ有毒成分が皮膚に付いた　**接触**
- 03 虫が栄養源として皮膚から血を吸った　**吸血**
- 04 虫がヒトの皮膚を生活の場とした　**寄生**
- 05 虫に血を吸われたときに、微生物による感染症がうつった　**媒介**

Q3 虫刺されの治療はどうすればよいですか？

薬はからだに入る経路によって、口から飲む内服薬、からだの外側から作用させる外用薬、そして筋肉、血管内に直接入れる注射薬の3種類に大きく分かれています。虫刺されの治療は、軽症であれば市販のかゆみ止め外用薬（いわゆる塗り薬）でもよいですが、赤みやかゆみが強い場合は、症状の改善のためにステロイド外用薬が必要となることがあります。症状が強い場合は、抗ヒスタミン薬やステロイドの内服薬が必要になるので、皮膚科専門医を受診するのがよいでしょう。

重要な点は、これらの治療はあくまで現在の皮膚症状を抑えるのが目的であり、原因虫からの回避、あるいはその駆除対策を実施しなければ新たに虫刺されの症状が現れる可能性があるということです。

Q4 虫刺されの予防はどうすればよいですか？

もちろん、原因となっている虫の種類によって違います。室内の蚊やノミ、イエダニなどの駆除には燻煙殺虫剤が有効ですが、気密性の低い家屋では、あまり効果がでません。室内での被害を防ぐには、第一に「虫を家に入れないこと」が大切です。網戸などを設置するほか、蚊取り線香やエアゾールなどの殺虫剤を上手に使うとよいでしょう。殺虫剤は、除虫菊に由来する殺虫成分を含む「ピレスロイド系」と呼ばれるものが主流であり、虫の神経に作用して退治するというものです。屋外では、露出を避けるほか、屋外用の殺虫剤と肌などにつける虫よけ剤（忌避剤）の併用が有効でしょう。

夏場は、軽装で屋外で過ごす時間が長くなりやすいため、虫刺されの予防対策ポイントは、

服装や持ち物は明るいものを選ぶ。

ハチは黒っぽいものに反応して襲う習性があるため、服やバッグなどはできるだけ明るい色にしましょう。明るい色だとマダニやムカデなどの虫が付着しているのをみつけやすくなります。

皮膚の露出を少なくする。

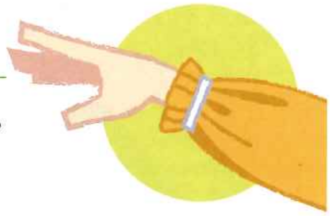
長袖・長ズボンにし、帽子・手袋を着用、首にはタオルを巻くなど、できるだけ皮膚の露出を少なくすることが虫刺され予防に効果的です。万が一、ハチに刺された場合でも、針が皮膚に届かずに済むことがあります。

香水や整髪料をつけない。

香水や整髪料は、虫を過剰に刺激したり引き寄せたりすることがあるので注意が必要です。

ズボンの裾や袖を留める。

服の隙間から虫が侵入しないように、裾や袖口をバンドやゴムで留めます。



全身に虫よけスプレー

虫よけスプレーには、虫が嫌がる成分が入っています。服や靴の上からもしっかり吹き付けます。顔や首すじには、手に取って、眼の周囲を避けて塗ります。また、子どもには刺激が強すぎるため使用できない製品や、回数制限がある製品もあります。使用上の注意をよく確認して使うことが必要です。ハチには、虫よけスプレーは効きませんので、ハチやハチの巣を発見したら、静かに離れてください。

家に入る前に虫チェック

家の中に虫を持ち込まないよう、家に入る前に服や持ち物に虫がついていないかチェックし、すぐに着替えます。子どもの場合は、体に虫がついていないかどうか、保護者がチェックしてあげましょう。

参考
1.虫さされ - 皮膚科Q&A（公益社団法人日本皮膚科学会）
2.虫刺されに要注意!マダニやハチなどに刺された時の対処法と予防法 | NHK健康チャンネル（解説：橋本 喜夫）

発行／佐賀県医師会
〒840−0054 佐賀県佐賀市水ヶ江一丁目12番10号 佐賀メディカルセンター4階 TEL 0952-37-1414 FAX 0952-37-1434
URL：http://www.saga.med.or.jp E-mail：sma@saga.med.or.jp